

久留米工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	西欧文化論	
科目基礎情報							
科目番号	5CG01			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	生物応用化学科			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	毎回、内容に関連した資料を配布する。						
担当教員	福田 かおる						
到達目標							
1. 西欧人の態度や考え方の特徴とされる事柄について、基礎的な知識を習得する。 2. 自分を含めた現代人の生活に、西欧文化がどう影響しているのかを考察できる。 3. 自分の考えを整理して、明確な文章で表現することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 西欧的な「個人主義」「合理主義」とはどのようなものかを理解する		西欧的な「個人主義」「合理主義」について自分がどう理解したかを説明できる		資料を参照しながら西欧的な「個人主義」「合理主義」と自分自身の考え方を比較できる		西欧的な「個人主義」「合理主義」についてコメントできない	
評価項目2 西欧文化が日本人や自分自身に与えている影響を理解できる		自分の価値観や人生観を近代化以降の西欧的価値観と関連付けて説明することができる		資料を参照しながら西欧近代の価値観が日本に影響を与えている点をいくつか挙げるができる		西欧近代文化がどのような点で自分の考え方に影響を与えているか全く説明できない	
評価項目3 授業で理解した内容と自分の考えを明確な文章で表現できる		他者の考えや論説と自説を区別しながら、論理的に説明できる		自分の考えを論理的に説明できる		自分の考えを論理的に説明できない	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE A-2							
教育方法等							
概要		「西欧」のイメージは近代化や合理的思考などと結び付けられることが多いが、この授業では、近代化をもたらした「西欧的」考え方や態度とはどのようなものであるかを、著名な文献を参照しながら考察する。また、近代化を牽引してきた西欧という側面だけでなく、近代化後の問題に直面し対処しようとしている一面についても紹介する。					
授業の進め方・方法		・授業では毎回テーマに沿った資料を配布し、それを参考にしながら進める。 ・講義では資料の解説のほか補足説明もするので、各自で講義内容をノートに記録すること。試験時には配布資料と自筆ノートを持込み可とする。 ・出席確認を兼ねて、毎回最後にその日の授業内容に関連した質問を出し、それに対する各自の回答を提出してもらう。回答は内容と表現の2点を評価し、成績の一部とする。					
注意点		点数配分：定期試験70%、授業毎の提出物30% 評価基準：60点以上を合格とする。 再試：再試験は実施しない。（5点前後不足した学生には補充レポートを課す場合がある。）					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	イントロダクション：「西欧文化」のイメージ		自分がこれまでに抱えてきた「西欧文化」のイメージを確認する。		
		2週	「個人主義」について		他の受講者が持っている「西欧文化」のイメージを参照する。さらに、西欧的な「個人主義」と自分の考え方を比較する。		
		3週	西欧的人間観		「動物の福祉」・「動物の権利」についての議論を参照しながら、西欧的人間観の特徴を理解する。		
		4週	西欧的自然観		近年の動物福祉運動やベジタリアンの増加に現れた、動物観・自然観を理解する。		
		5週	社会の変化と動物観・自然観の変遷（キース・トマス参照）		産業革命後のイギリスで、社会の変化が人々の自然観・動物観にどのような変化をもたらしたかを概観する。		
		6週	マナーの発達と文明化（ノルベルト・エリアス参照）		西欧における「文明化された」礼儀作法の生成過程を概観する。		
		7週	近代国家と規律（ミシェル・フーコー参照）		近代的刑罰が人間の精神を矯正・感化する方法に変化したことを概観する。		
		8週	工業化と経済システムの変化（1）（カール・ポラニー参照）		西欧で発達した近代的な市場経済の特徴を知る。		
	4thQ	9週	工業化と経済システムの変化（2）（カール・ポラニー参照）		「自由な個人」の創出と経済発展の関係を理解する。		
		10週	個人と理性		キリスト教思想において「理性」が重要な要素であることを理解する。		
		11週	「勤勉な現代人」を作ったもの（マックス・ウェーバー参照）		西欧人の勤勉さの底流には「合理主義」があるという学説を知る。		
		12週	チャリティーと隣人愛		キリスト教的「隣人愛」の考え方を知り、相互扶助・社会保障につながる経緯を概観する。		
		13週	消費者意識		近年の消費者運動の主張が「個人の権利と責任」に対する考えを反映していることを理解する。		
		14週	近代化の余波：価値観の変化（アンソニー・ギデンズ参照）		近代化以後の西欧人の問題意識を知る。		
		15週	まとめ		授業で紹介した西欧文化の要素を再度確認する。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合

	試験	提出物				その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0